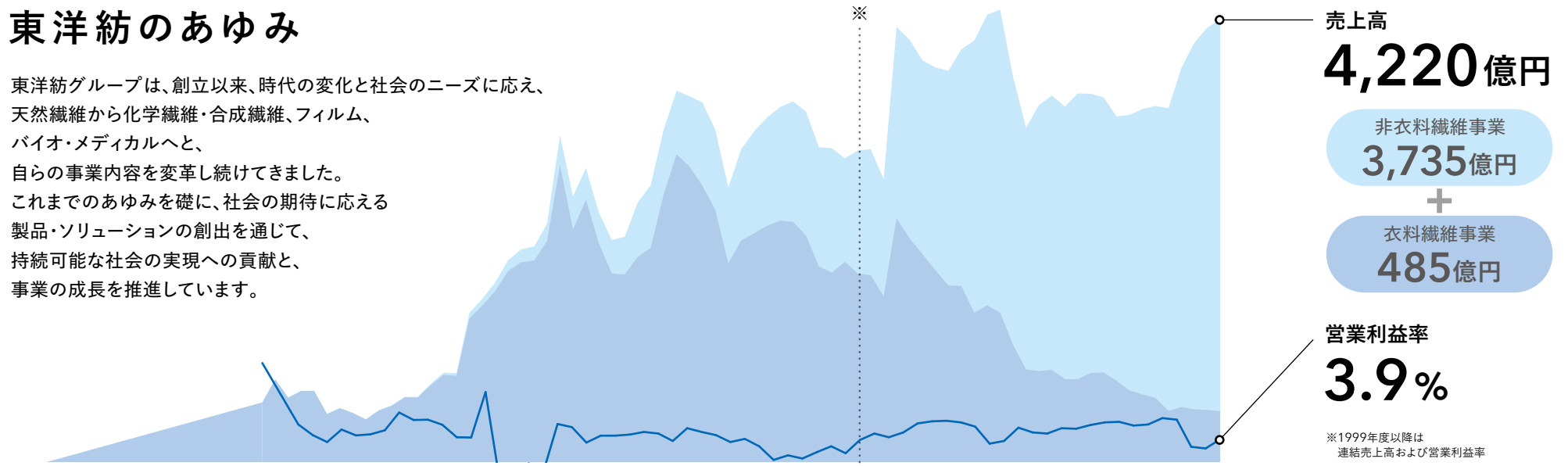


# 東洋紡のあゆみ

東洋紡グループは、創立以来、時代の変化と社会のニーズに応え、天然繊維から化学繊維・合成繊維、フィルム、バイオ・メディカルへと、自らの事業内容を変革し続けてきました。これまでのあゆみを礎に、社会の期待に応える製品・ソリューションの創出を通じて、持続可能な社会の実現への貢献と、事業の成長を推進しています。



売上高  
**4,220億円**

非衣料繊維事業  
**3,735億円**

+

衣料繊維事業  
**485億円**

営業利益率  
**3.9%**

※1999年度以降は連結売上高および営業利益率

1880 1920 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020

1882年～1960年代

設立～合成繊維へ進出し、国内最大規模の紡績企業に

- 1882年** 大阪紡績会社創立 紡績事業開始
- 1914年** 大阪紡績(株)と三重紡績(株)が合併し東洋紡績(株)創立
- 1956年** 合成繊維事業へ進出
- 1963年** フィルム事業へ進出
- 1966年** 呉羽紡績(株)と合併し国内最大規模の紡績会社が誕生

1970年～1990年代

フィルムからさらに、プラスチック、機能膜、バイオ事業に進出

- 1970年** プラスチック事業へ進出
- 1972年** 診断薬・原料事業へ進出
- 1978年** 機能膜事業へ進出。翌年、海水淡水化モジュールの商業販売を開始
- 1982年** 創立100周年を迎える
- 1982年** 生化学事業としてライフサイエンス試薬分野へ進出
- 1991年** スーパー繊維事業へ進出
- 1993年** 医薬品製造受託事業へ進出
- 1990年代後半** 継続的に紡績工場を休止し選択と集中を実施

2000年～2010年代

環境、ライフサイエンス、高性能樹脂などさらなる領域へ拡大

- 2002年** 非衣料繊維事業の連結売上高が衣料繊維事業を超過
- 2003年3月** 連結売上高 衣料繊維 1,830億円 / 非衣料繊維 1,934億円
- 2009年** バイオ事業として化粧品原料分野へ進出
- 2013年** 液晶ディスプレイ向け偏光子保護用超複屈折フィルムの提供開始
- 2019年** 帝人フィルムソリューション(株)、P.T.IndonesiaTeijin Film Solutionsを子会社化

2020年代

新たな飛躍に向けて、事業と組織を変革

- 2020年** 新型コロナウイルスの体外診断用医薬品の提供開始
- 2023年** 東洋紡(株)と三菱商事(株)による機能素材分野における合弁会社「東洋紡エムシー(株)」の事業を開始

これまでの歩みを生かして「ソリューション」を提供

新循環プラスチックソリューション

環境アクティブグリーンソリューション

Well-Beingソリューション

市場・社会課題

- 日本の産業発展
  - 紡績業や製糸業など軽工業分野が活発化
- 戦後復興、高度経済成長
  - 衣食住の充実
- 安定成長期
  - 大気汚染による公害問題の増加
  - モーターリゼーションによる交通事故の増加
  - 衣服の快適性の追求
- 進む情報化、国際化
  - 生活習慣病の増加
  - 世界各地で問題視される水不足
- 高まる環境意識・デジタル技術の進化
  - 液晶テレビの普及
    - 注目されるフードロス
    - スマートフォンの普及
  - 新型コロナウイルス感染症拡大
    - 生成AIの進化と普及拡大

# 価値創造プロセス

サステナブル・ビジョン2030

企業理念：『順理則裕』

インプット

ビジネスモデル >p.12

アウトプット

アウトカム

### 財務資本

- 連結総資産 ..... 6,178億円
- 株主資本 ..... 1,524億円

### 製造資本

- 生産拠点数 ..... 37拠点
- 設備投資 ..... 432億円
- 顧客ニーズを実現する生産技術力
- 開発から生産まで連携できるネットワーク

### 知的資本

- 主要研究開発拠点数※1 ..... 3拠点
- 研究開発投資 ..... 143億円
- 四つのコア技術
- 特許保有件数※1 ..... 4,677件

### 人的資本

- 連結従業員数 ..... 9,976人
- 研究開発人材数※2 ..... 509人
- 社内公募制度による異動者数(累計)※3 ..... 20人
- 企業理念を実践する人材

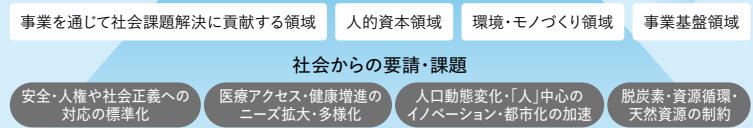
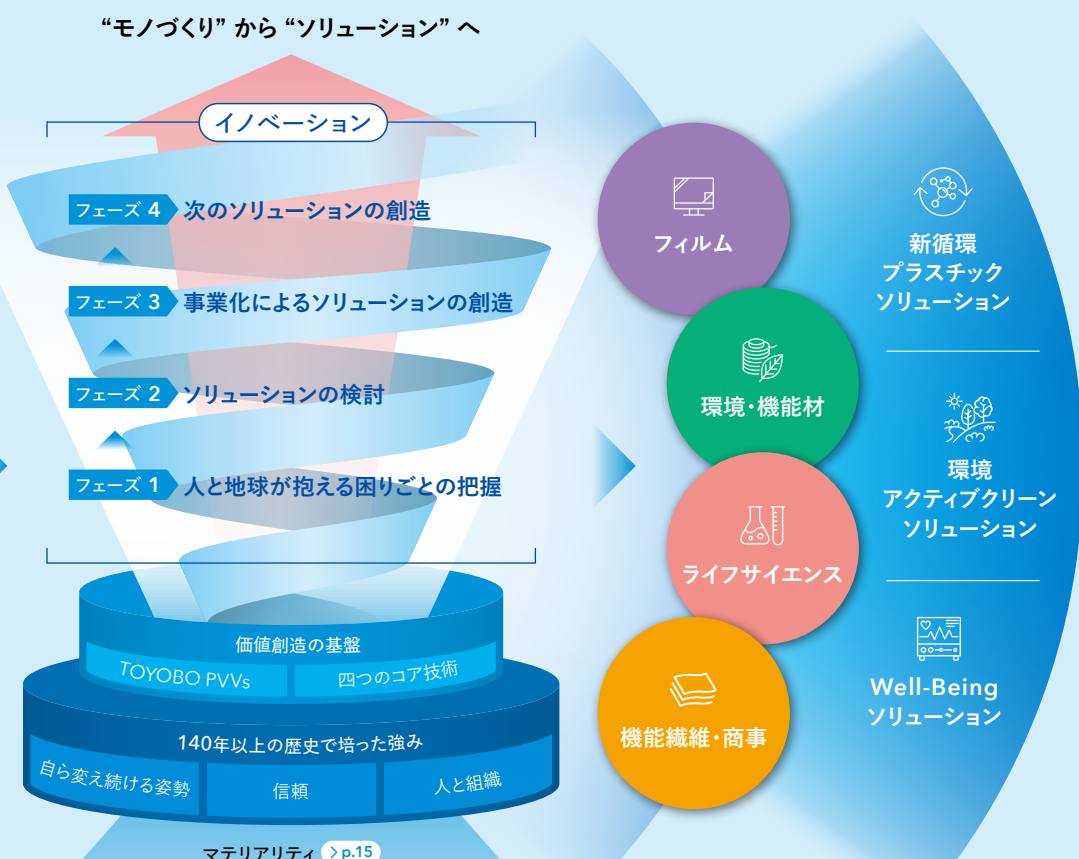
### 社会関係資本

- 顧客・サプライヤーおよび地域社会との強固な信頼関係
- 大学や他企業との連携
- 各種イニシアチブ参画

### 自然資本

- エネルギー消費量 ..... 2,775GWh
- 水資源取水量 ..... 85,497千m<sup>3</sup>
- 環境負荷低減に貢献する技術

2024年度実績



※1 東洋紡単体 ※2 東洋紡単体および東洋紡エムシー(株)  
 ※3 東洋紡単体、東洋紡エムシー(株)、東洋紡STC(株)および東洋紡せい(株)  
 ※4 東洋紡単体、東洋紡エムシー(株)および東洋紡STC(株)  
 ※5 東洋紡単体および国内連結子会社

「素材+サイエンス」で人と地球をゆたかにする

### サステナブル・ビジョン2030

People Planet Prosperity Innovation

目標値

- ROE 9%以上/ROIC 7%以上
- フィルムのグリーン化比率 ..... 60%
- 従業員エンゲージメントスコア ..... 70%以上
- 重大インシデント ..... 0件
- GHG排出量削減率 Scope1,2 2013年度比 ..... 46%以上

### 財務指標

|      |      |         |       |
|------|------|---------|-------|
| ROE  | ROIC | 売上高     | 営業利益  |
| 1.0% | 2.3% | 4,220億円 | 167億円 |

### サステナビリティ指標

事業を通じた貢献

- フィルムのグリーン化比率※1 ..... 14%
- 環境配慮製品売上高比率※2 ..... 31%

人的資本

- エンゲージメントスコア※3 ..... 52%
- 女性管理職比率※4 ..... 5.6%

環境・モノづくり

- 重大災害件数※5 ..... 0件
- GHG排出量削減率 Scope1,2 2013年度比 ..... 35%

事業基盤

- CSR調達アンケート結果※1 (2023年度実施、1次サプライヤー) アンケート回収率 ..... 100%
- 取り組み良好企業の割合 ..... 82%

2024年度実績

# 東洋紡の強み — 三つの強みとTOYOBO Spirit —

当社グループは、140年以上の歴史で培った三つの強みと四つのコア技術を基盤として、独自の価値を創造しています。三つの強みは当社グループのDNAであり、これは企業理念体系「TOYOBO PVVs」の中で宣言しているTOYOBO Spiritに受け継がれ、これからも大切にしていける価値観です。

## TOYOBO Spirit

9 Commitments 9つの約束

**挑 戦**

先取 創造 遂行

**信 頼**

安全へのこだわり お客様が満足 現場・現物・現実

**協 働**

双方向の意思疎通 多様性の確保・活用 やってみたい機会の提供

### 環境の変化に応じ、 事業内容を「自ら変え続ける姿勢」

創立以来、時代に応じた社会課題の解決に貢献すべく、天然繊維から化学繊維・合成繊維、フィルム、バイオ・メディカルなど新たな事業領域にチャレンジし、社会が求める「新」を創出してきました。当社グループはこれらの経験を通じて、変化を先取りしながら柔軟な発想で創造し、妥協しない意志をもってやり抜く力を受け継いでいます。今後もお客さまからの要望や事業環境の変化に対応できる技術力とチャレンジ精神を磨きながら、四つのコア技術にマーケティング思考とデジタル技術を掛け合わせることで、社会課題の解決に貢献するイノベーションを創出していきます。

東洋紡のあゆみ > p.08 TXで、より強い会社へと変革を進める > p.32

関連するマテリアリティ指標 **事業を通じて社会課題解決に貢献する領域の項目** > p.16  
イノベーションの項目 > p.17

### 社会から 獲得し続けてきた「信頼」

当社グループは安全・防災や品質保証、コンプライアンスの活動を通じて、創立から140年以上、お客さまを始めとするステークホルダーからのゆるぎない信頼を獲得し続けています。お客さまが本当に求めるものを探り考え、一歩早く、一歩前に出て対応しています。また、CSR調達アンケートの良好な結果から、サプライヤーとも強固な信頼関係を築いています。当社グループはこれからも社会の一員として責任を果たすとともに、その発展に貢献すべく、事業を通じてあらゆるステークホルダーから信頼される企業であり続けます。

安全・防災 > p.47 品質 > p.48 コンプライアンス > p.52

関連するマテリアリティ指標 **安全・防災、品質の項目** > p.16  
パートナーシップ、コンプライアンスの項目 > p.17

### 企業活動と改革を実行してきた 「人と組織」の存在

ステークホルダーからの要望に真摯に対応すべく、柔軟な発想ができる人材の育成や、組織風土の醸成に取り組んできました。過去の構造改革期においては、強い信念を持つ変革者とそれを支える人材が協働することで、構造改革を後押ししました。当社グループが有する誠実さと柔軟さは、社外のステークホルダーに限らず、社内のあらゆる事業に携わる従業員に対しても互いに尊重し共創する風土を醸成し、現在の東洋紡らしきにつながっています。

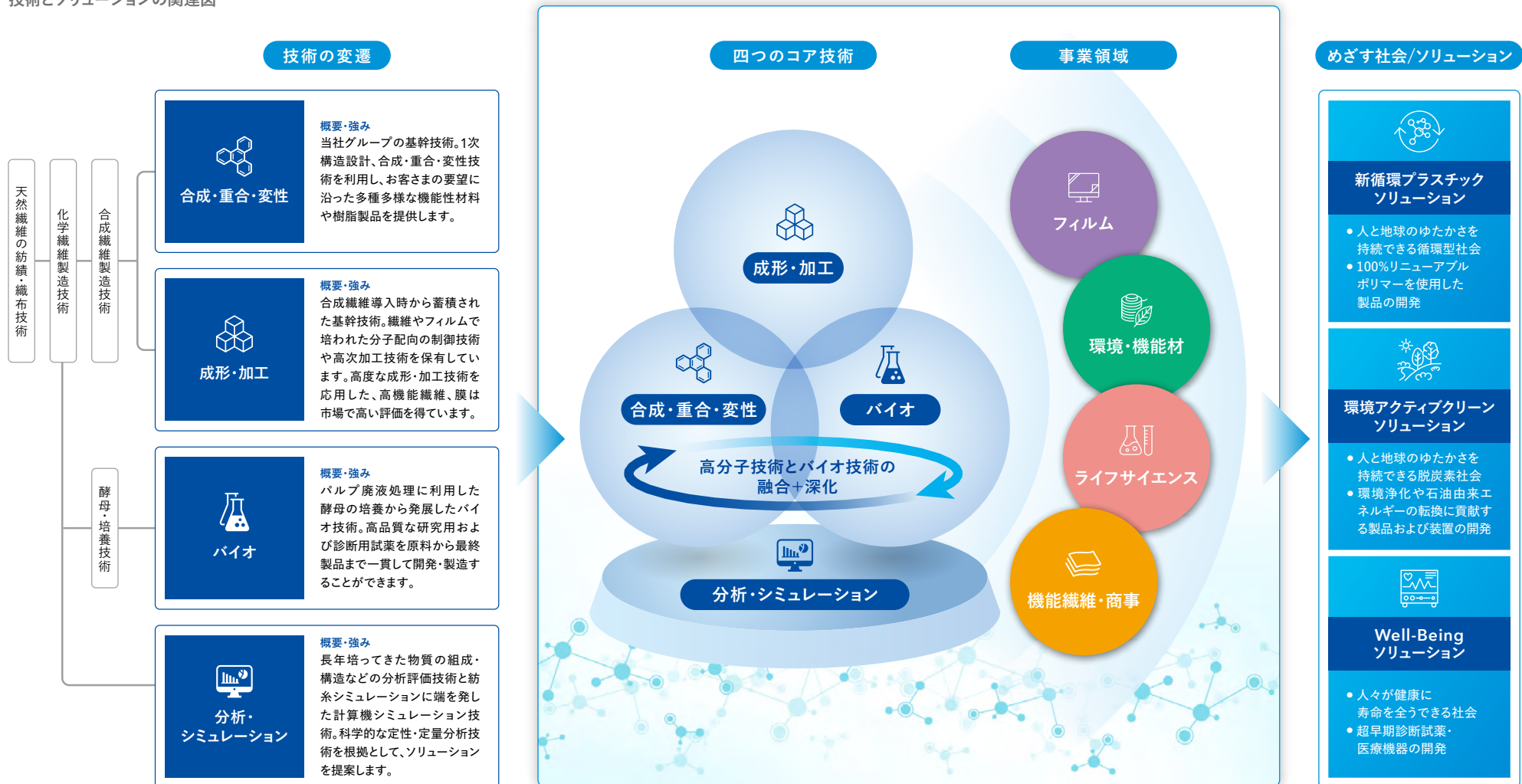
近年、企業を取り巻く事業環境は急激かつ非連続的に変化していますが、当社グループはこれをリスクである一方で機会でもあると捉え、変化を恐れず、変化を楽しみ、変化をつくり続けます。

人材戦略 > p.25 関連するマテリアリティ指標 **人的資本領域の項目** > p.16

# 東洋紡の強み — 四つのコア技術 —

当社グループは、創立当初より技術開発を重視し、その成果は四つのコア技術として発展させてきました。今後は特に、高分子技術とバイオ技術の融合と深化を図り、さらなるコア技術の強化に取り組んでいきます。これらの独自技術を生かして、人と地球に求められるソリューションを創造し続けます。

技術とソリューションの関連図



技術の変遷

合成・重合・変性

**概要・強み**  
当社グループの基幹技術。1次構造設計、合成・重合・変性技術を利用し、お客さまの要望に沿った多種多様な機能性材料や樹脂製品を提供します。

成形・加工

**概要・強み**  
合成繊維導入時から蓄積された基幹技術。繊維やフィルムで培われた分子配向の制御技術や高次加工技術を保有しています。高度な成形・加工技術を応用した、高機能繊維、膜は市場で高い評価を得ています。

バイオ

**概要・強み**  
パルプ廃液処理に利用した酵母の培養から発展したバイオ技術。高品質な研究用および診断用試薬を原料から最終製品まで一貫して開発・製造することができます。

分析・シミュレーション

**概要・強み**  
長年培ってきた物質の組成・構造などの分析評価技術と紡糸シミュレーションに端を発した計算機シミュレーション技術。科学的な定性・定量分析技術を根拠として、ソリューションを提案します。

四つのコア技術

成形・加工

合成・重合・変性

バイオ

分析・シミュレーション

高分子技術とバイオ技術の融合+深化

事業領域

フィルム

環境・機能材

ライフサイエンス

機能繊維・商事

めざす社会/ソリューション

新循環プラスチックソリューション

- 人と地球のゆたかさを持続できる循環型社会
- 100%リニューアブルポリマーを使用した製品の開発

環境アクティブクリーンソリューション

- 人と地球のゆたかさを持続できる脱炭素社会
- 環境浄化や石油由来エネルギーの転換に貢献する製品および装置の開発

Well-Beingソリューション

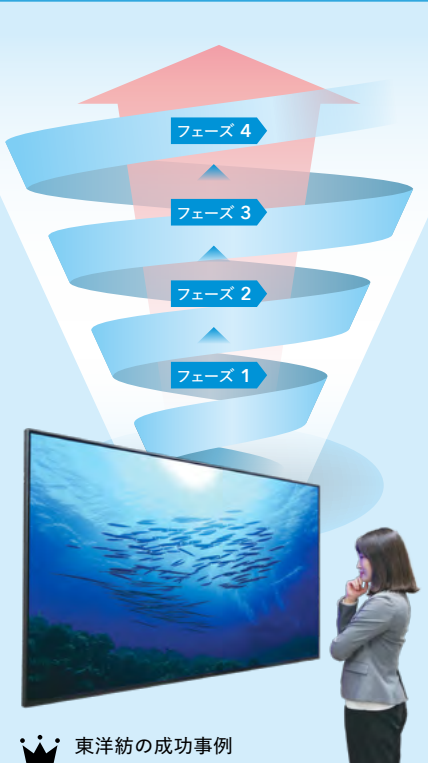
- 人々が健康に寿命を全うできる社会
- 超早期診断試薬・医療機器の開発

# 価値創造サイクル — 東洋紡グループのビジネスモデル —

Voice by TOYOBO ~TOYOBOの体温を感じるオウンドメディア~

当社グループは、ビジネスモデルを支える諸資本を強化しながら、人と地球への価値創造サイクルを回すことで、素材の可能性を最大化した“モノづくり”と、一歩先を行く“ソリューション”を提供します。主力製品のひとつである液晶偏光子保護フィルム「コスモシャインSRF®」を事例に、東洋紡らしい価値創造サイクルをご紹介します。

| 「コスモシャインSRF®」の価値創造サイクル  | 開発当時の状況／活用した経営資本   |
|---|--|
| <p><b>フェーズ 1</b><br/>人と地球が抱える<br/>困りごとの把握</p> <p>当社の技術開発者は右記①～③の市場の変化と顧客ニーズを的確に捉え、当社グループの技術を活用して、市場変化に対応した代替素材を提供すべきであるという課題を認識</p>   | <p><b>開発当時の状況</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 当時、偏光子保護フィルムとして主流のTAC(トリアセチルセルロース)フィルムは高価であるという問題</li> <li>② 液晶業界は技術革新期を迎え、液晶テレビのバックライトが蛍光灯からLEDに切り替わっていく市場の変化</li> <li>③ 海外加工メーカーであるお客さまから、液晶テレビの耐水性が低く、表示品位の低下を問題視しているという情報入手</li> </ol> <p><b>活用した経営資本</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会関係資本 (お客さまとの強固な信頼関係、市場の変化を読み取る力)</li> </ul>                                    |
| <p><b>フェーズ 2</b><br/>ソリューションの検討</p> <p>当社の技術開発者は、右記①②の理由から「PET(ポリエチレンテレフタレート樹脂)」に着目し、海外加工メーカーであるお客さまとの協創により「コスモシャインSRF®」の開発がスタート。併せて、試作品段階から戦略的に特許を出願することで技術を保護</p>   | <p><b>開発当時の状況</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① PETを偏光子保護フィルムに使用すると虹むらが出るが、バックライトがLEDになれば、通常よりもさらに延伸させることで、虹むらが解消できることを確認(「フェーズ1②」と符合)</li> <li>② PETは耐水性や熱特性に優れるとともに、汎用素材であることからコストダウンも実現でき、顧客ニーズに合致</li> </ol> <p><b>活用した経営資本</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 知的資本 (戦略的な特許出願、過去から蓄積された知見)</li> </ul>   |
| <p><b>フェーズ 3</b><br/>事業化による<br/>ソリューションの創造</p> <p>量産品生産までには、経験したことがないほど高難度の要求品質基準をクリアする必要があり、右記①②の課題に直面。しかし、社長直轄プロジェクトとして、技術開発者だけでなく、製造・品質保証担当者も営業担当者とともに直接お客さまのニーズを捉え、生産技術の確立という解決策を見いだし製品化を実現</p>           | <p><b>開発当時の状況</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 虹むらを解消するために大きく延伸すると、生産工程で破けやすくなるという生産技術上の問題が発生、量産に向けた技術確立が難航</li> <li>② ①を開発側では解決できず、工場の生産技術者へバトンタッチ。約2年間、破けやすさとの闘いが続くも、お客さまから求められる高い品質水準とスピード感に応えるべく幾度もチャレンジ</li> </ol> <p><b>活用した経営資本</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 製造資本(顧客ニーズを実現できる高い生産技術力)</li> <li>● 人的資本(部門間連携、多様性の発揮)</li> <li>● 社会関係資本(お客さまとの強固な信頼関係)</li> </ul> |
| <p><b>フェーズ 4</b><br/>次のソリューションの<br/>創造</p> <p>「コスモシャインSRF®」の開発を通じて獲得した右記①～④の力を活用。カーボンニュートラル社会の実現に寄与すべく、水素関連市場へPEN(ポリエチレンナフタレート)フィルム「テオネック®」を展開するなど、再現性のある価値創造サイクルを他の事業、製品へ応用。One東洋紡として社会課題に貢献するソリューションを提供</p> | <p><b>開発当時の状況</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① マーケティング力：市場変化と顧客の潜在ニーズを読み取り、適切なタイミングで技術を提案</li> <li>② 生産技術力：仮説をもって技術を具現化</li> <li>③ 知的財産力：お客さま提案前から特許出願を行い、技術を保護</li> <li>④ 部門を超えた連携力：ソリューション提供の源泉</li> </ol> <p><b>活用した経営資本</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会関係資本</li> <li>● 知的資本</li> <li>● 製造資本</li> <li>● 人的資本</li> </ul>   |



東洋紡の成功事例

## 液晶偏光子保護フィルム 「コスモシャインSRF®」

LED光源との組み合わせにより、複屈折による着色(虹むら)を解消した超複屈折フィルム。主に大型の液晶テレビに使われており、液晶テレビの偏光子保護フィルム用途では市場シェア60%\*を誇る。

\*当社推定

# 価値創造サイクルを支える四つの資本

当社グループのめざす姿「人と地球に求められるソリューションを創造し続けるグループ」を実現するための源泉は、従業員を始めとする、これまで培ってきた経営資本です。その中でも当社グループの価値創造サイクルを支える重要な資本について、その要素を社内議論を重ねて集約し、サステナビリティ委員会を経て特定しました。「ゆたか」な社会の実現に向けて、これらの経営資本を強化するとともに、価値創造サイクルを加速させていきます。



## 人的資本

資本の内容

- 9,976人の従業員
- 509人の研究開発人材
- 社内公募制度による累計異動者数 20人
- 企業理念を実践する人材

強化の方向性

- 人的資本充実に向けた次世代人材の育成
- 新たなスキル獲得機会の提供
- 多様性を発揮できる社内公募制度の活用
- 多様な働き方の整備

経営資本と考える理由

当社グループの最も重要な価値創造の源泉は従業員です。企業理念体系「TOYOBO PVVs」で示す共通の価値観を基軸に、素材メーカーとしての専門性やさまざまなスキルを持つ多様な人材が、相互に尊重し刺激し合うことで、新たな価値を創出しています。従業員一人ひとりが誇りとやりがいを持って活躍し、成長することが当社グループの持続的な成長につながると考えています。今後は、多様な人材が組織の機能や役割を超えて力を発揮できる環境および機会の提供を行うことで、イノベーションの創出を加速させていきます。



## 製造資本

- 37カ所のグローバルな生産拠点
- 設備投資 432億円
- 顧客ニーズを実現する生産技術力
- 開発から生産まで連携できるネットワーク

- 確実な技術伝承制度の整備
- デジタル技術による生産効率向上
- プロセス革新による付加価値創出

当社グループは140年以上の間、モノづくりに真摯に取り組んできました。天然繊維から始まり現在に至るまで、社会課題を解決するためのアイデアや技術を具現化することで、お客さまから選ばれ続ける製品を生み出してきました。この顧客ニーズを実現する生産技術力は社会課題を解決し、「ゆたか」な社会を実現するための重要な製造資本であると考えています。

今後は、固有の生産技術力を伝承するとともに、デジタル技術の活用による生産性向上・付加価値創出を図り、ステークホルダーの皆さまの期待に応え続けます。



## 知的資本

- 3カ所の主要研究開発拠点
- 研究開発投資 143億円
- 四つのコア技術
- 特許保有件数 4,677件

- 重点価値領域における専門人材の育成
- 発明報奨制度による発明の促進
- デジタル技術による開発効率向上

当社グループはこれまでの歴史の中で、社会課題に応じた技術の変革を繰り返してきました。祖業の紡績事業に端を発して、社会課題の変化に対応する中で、現在の四つのコア技術を発展させてきました。柔軟な発想と真摯な技術開発を通じた変革プロセスこそが、当社グループの知的資本における競争優位の源泉であると考えています。

これからも確かな技術伝承を通じてコア技術を発展させ、新たなソリューションを創出することで「ゆたか」な社会の実現に貢献し続けます。



## 社会関係資本

- 顧客・サプライヤーおよび地域社会との強固な信頼関係
- 大学や他企業との連携
- 各種イニシアチブ参画

- 人権デュー・デリジェンスの実施
- 環境デュー・デリジェンスの実施
- 研究助成など若手研究者の支援

「ゆたか」な社会を実現するためには、ビジネスパートナーとの協働体制が必要不可欠です。さらに、産官学とのオープンイノベーションを通じた価値協創も加速させていきます。人と地球に求められるソリューションを提供するために、多様なステークホルダーと強固な信頼関係を構築することが重要であると考えています。

今後もステークホルダーの皆さまからの信頼に応え続けるとともに、新たなビジネスを協創することで、社会課題の解決に貢献します。